

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和5年11月27日時点

開催日時	開催形式（場所）	名称
12月2日（土） 13:00～16:50	オンライン開催	公開シンポジウム「害虫・病原体・雑草に対する作物の耐性強化研究の進展」
12月4日（月） 10:00～17:30	ハイブリッド開催 （講堂）	公開シンポジウム「第13回計算力学シンポジウム」
12月9日（土） 13:30～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「法獣医学を解く」
12月12日（火） 13:30～ 12月15日（金） 17:30	ハイブリッド開催 （講堂、大会議室）	公開シンポジウム「「データサイエンス国際シンポジウム 2023」 － アジア・オセアニア地域におけるオープンデータ協力体制の構築 －
12月15日（金） 13:00～16:00	ハイブリッド開催 （静岡大学）	中部地区会議学術講演会「微生物がつなぐ文理融合研究－野生酵母クラフトビールと地域振興」
12月15日（金） 13:00～17:30	オンライン開催	公開シンポジウム「水産・海洋分野におけるAIの役割と課題」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

令和5年度日本学術会議公開シンポジウム

# 害虫・病原体・雑草に対する 作物の耐性強化研究の進展

令和5年12月2日(土)

13:00~16:50

Zoomによるオンライン配信

参加無料(事前申込制)

事前参加申し込み締切: 11月25日(土)

メールで下記申し込み先までお申し込みください  
ZoomのURLをお知らせいたします

主催

日本学術会議農学委員会

同 植物保護科学分科会

日本植物保護科学連合(日本植物病理学会,  
日本応用動物昆虫学会, 日本農薬学会,  
日本雑草学会, 植物化学調節学会)

13:00~13:10 **開会挨拶**  
松本 宏 日本学術会議連携会員・日本植物保護科学連合運営委員会委員長

13:10~13:45 **天然生理活性物質の機能を応用した作物のストレス耐性強化**  
浅見 忠男(東京大学農学生命科学研究科 教授)  
座長 松田 一彦(近畿大学農学部 教授)

13:45~14:20 **病原体に対する園芸作物の耐性強化の実例と今後の方向性**  
岩波 徹(東京農業大学農学部 教授)  
座長 大里 修一(明治大学農学部 准教授)

14:20~14:55 **雑草抑圧力に優れる水稻品種の作出に向けた試み-研究の進捗状況と今後の展望-**  
浅見 秀則(農研機構 西日本農業研究センター 研究員)  
座長 小林 浩幸(宇都宮大学雑草管理教育研究センター 教授)

14:55~15:10 (休憩)

15:10~15:45 **ネギハモグリバエ抵抗性ネギ品種の開発と利用に向けて**  
浦入 千宗(農研機構 野菜花き研究部門野菜花き育種基盤研究領域 研究員)  
座長 日本 典秀(京都大学農学研究科 教授)

15:45~16:20 **植物-植物コミュニケーションを利用した作物の耐性強化を目指して**  
米山 香織(埼玉大学理工学研究科 准教授)  
座長 岡田 憲典(東京大学農学生命科学研究科 准教授)

16:20~16:50 **総合討論**  
渡辺 京子 日本学術会議第二部会員・玉川大学農学部 教授

申し込みおよび問い合わせ先: 松本 宏 E-mail: hmatsu@biol.tsukuba.ac.jp

## 第13回 計算力学シンポジウム

主催

日本学術会議 総合工学委員会、総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共催

可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会  
日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合

後援 自動車技術会

**開催趣旨** 我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果を、まとめて聞くことができる貴重な機会です。さらに、昨今の新技術である量子コンピューティングや生成系AIの急進展をうけて、**計算力学を拡張する新技術：量子コンピューティングと生成系AI**と題した特別企画を開催し、第一線でご活躍中の研究者による講演と討論を行います。

日時：令和5年12月4日（月）10:00～17:30

会場：日本学術会議講堂 及び オンライン [webinar](#)（ハイブリッド開催）

申込：事前申込不要（直接ご来場いただくか上記リンクよりご参加ください）

参加費：無料 問合せ先：[tohru.hirano@daikin.co.jp](mailto:tohru.hirano@daikin.co.jp)（ダイキン・平野 徹）

次第

各講演時間には5～10分の各学会長による講演者紹介と質疑応答を含みます

総合司会：平野 徹（ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター シニアスキルスペシャリスト）

10:00-10:10 開会の辞：

高橋 桂子（日本学術会議・計算科学シミュレーションと工学設計分科会委員、早稲田大学大学院教授）

**第I部 若手研究者による講演**

10:10-10:30 講演1（日本計算力学連合）

遊佐 泰紀（電気通信大学助教大学院情報理工学研究科助教）  
「固体力学問題のパラメトリック解析の並列化・自動化」

10:30-10:50 講演2（日本応用数理学会）

相原 研輔（東京都市大学情報工学部情報科学科准教授）  
「大規模連立一次方程式に対するLanczos型反復法と残差スムージングの発展」

10:50-11:10 講演3（日本計算工学会）

高木 知弘（京都工芸繊維大学教授）  
「Phase-field法による先進的マルチフィジックス凝固シミュレーション」

11:10-11:30 講演4（日本機械学会計算力学部門）

松永 拓也（東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻講師）  
「高精度粒子法による自由表面流れの数値解析」

11:30-11:50 講演5（CAE懇話会）

堀江 正信（株式会社RICOS）  
「物理現象の性質を取り入れた機械学習モデルによる数値解析の高速化」

11:50-13:00 昼休み

13:00-13:20 講演6（日本計算数理工学会）

矢地 謙太郎（大阪大学大学院工学研究科助教）  
「データ駆動型トポロジー最適化 一次元に呪われないメタヒューリスティクスの実現に向けて」

13:20-13:40 講演7（可視化情報学会）

坂本 尚久（神戸大学大学院システム情報学研究科准教授）  
「効率的な知見獲得を目指した大規模数値計算向けスマートin-situ可視化」

13:40-14:00 講演8（日本シミュレーション学会）

大西 南斗（HEXAGON Manufacturing Intelligence division）  
「昆虫羽ばたき翼における受動的運動の流体-構造連成モデル」

14:00-14:20 講演9（アジア太平洋計算力学連合）

今井 陽介（神戸大学 大学院工学研究科教授）  
「粘性環境でつくられる『かたち』の流体構造連成解析」

14:20-14:30 休憩

**第II部 特別企画「計算力学を拡張する新技術：量子コンピューティングと生成系AI」**

オーガナイザー、モデレーター 平野 徹（ダイキン工業株式会社 シニアスキルスペシャリスト）

14:30-15:25 特別講演1

今井 浩（東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻教授）  
「量子コンピューティングの可能性と量子優位性への挑戦」

15:25-16:20 特別講演2

大上 雅史（東京工業大学情報理工学大学院助教）  
「生成AIが加速する創薬・生命科学 ～Alpha Fold 2 の衝撃とTransformer アルゴリズム～」

16:30-17:25 総合討論

パネリスト：第II部特別講演者2名および、高橋 桂子（早稲田大学大学院教授）、松尾 亜紀子（慶應義塾大学教授）

17:25-17:30 閉会の辞

松尾 亜紀子（日本学術会議計算科学シミュレーションと工学設計分科会委員、慶應義塾大学教授）



Zoomウェビナー（無料）  
上記登録後にURLが自動配信されます

12/9（土）

13:30-16:00

- 13:30 開会の挨拶 高井伸二（北里大学 名誉教授）  
13:35 「法獣医学の基本」  
田中亚紀（日本獣医生命科学大学 特任教授）  
13:55 「野生動物の法獣医学」  
石塚真由美（北海道大学・獣医 教授）  
14:15 「法獣医学と動物法」  
三上正隆（愛知学院大学・法学 教授）  
14:35 「動物の遺棄・虐待防止に関する行政の取組  
～法獣医学と行政との関わり～」  
高橋真吾（東京都保健医療局 課長）  
14:55 「法獣医学における大学の役割と取り組み」  
木原友子（日本獣医生命科学大学 助教）  
15:30 総合討論「これからの法獣医学」  
15:50 閉会の挨拶 内田和幸（東京大学・農学 教授）

日本学術会議・日本法獣医学会 共催

# 法獣医学を解く



## 「データサイエンス国際シンポジウム 2023」

# － アジア・オセアニア地域におけるオープンデータ協力体制の構築 －

アジア・オセアニア地域におけるCOVID-19等の社会的課題や、様々な地球規模課題（パンデミック・情報氾濫・地球温暖化・異常気象・地域紛争等）に関連した、多様なデータのアーカイブ・公開・活用促進の現状について情報交換を行う。さらに、同地域のオープンデータに関係した国際ネットワーク形成や、国際的枠組みの中での具体的な連携体制を議論する。

2023年12月12日～15日

ハイブリッド開催  
(日本学術会議講堂+オンライン配信)



参加費: 無料

対象: どなたでも参加できます。申込は下記。

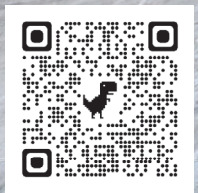
定員: 対面 150名、オンライン 1000名(12月12日)  
・300名(12月13-15日)

申込フォーム:

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScentvuo6RR16X8PHYSZ26hHnMNES-m2J\\_FbqGp3t\\_orKJu1w/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScentvuo6RR16X8PHYSZ26hHnMNES-m2J_FbqGp3t_orKJu1w/viewform)

\* 参加申込みをされた方には、当日までに参加用 Zoom URLをメールにてお知らせします。

問合先:  
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構  
金尾 政紀 (kanao[a]nir.ac.jp)  
国立研究開発法人 情報通信研究機構  
村山 泰啓 (Murayama[a]nict.go.jp)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
近藤 康久 (kondo[a]chikyu.ac.jp)



【プログラム】 (詳細は、[https://ds.rois.ac.jp/article/dsws\\_2023](https://ds.rois.ac.jp/article/dsws_2023) を参照)

### 12月12日(火)13:30～17:30 (主に日本語; 一般向けの講演会)

総合司会: 門倉 昭 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター長)  
金川 久美子 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設データサイエンス推進室特任専門員)

#### 13:30～14:05 開催挨拶及び趣旨説明

荒木 弘之 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設長)  
村山 泰啓 (日本学術会議連携会員・国際サイエンスデータ分科会委員長、国立研究開発法人情報通信研究機構 研究総括・ナレッジハブ長)  
澁澤 栄 (日本学術会議会員、アジア学術会議事務局長・財務担当役員、東京農工大学卓越リーダー養成機構 特任教授)

14:05～14:15 休憩

#### 14:15～15:55 第1部「講演: アジア・オセアニア地域の学術データ」

司会: 芦野 俊宏 (日本学術会議特任連携会員、東洋大学国際学部教授)  
14:15～14:35 講演Ⅰ「東南アジアの地域研究に関する学術データ」 原 正一郎 (京都大学東南アジア地域研究所連携教授)  
14:35～14:55 講演Ⅱ「南アジアの大気汚染に関する学術データ」 林田 佐智子 (奈良女子大学名誉教授、総合地球環境学研究所客員教授)  
14:55～15:15 講演Ⅲ「マレーシアのオープンサイエンス・イニシアティブ」 Noorsaadah Abd Rahman (マレーシア大学先端科学研究所 教授)  
15:15～15:35 講演Ⅳ「生物多様性条約と遺伝資源に関するデジタル配列情報 (DSI: Digital Sequence Information) の諸課題」  
有田 正規 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授DDBJセンター長)  
15:35～15:55 講演Ⅴ「データ管理における新テクノロジーと新たな機会」 Jonathan Kool (オーストラリア南極局データセンター長)

15:55～16:05 休憩

#### 16:05～17:25 第2部「パネルディスカッション」

司会: 近藤 康久 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授)

(パネリスト)

石井 守 (国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波伝搬研究センター長)  
前田 忠彦 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センター長)  
箕輪 真理 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設データサイエンス推進室特任准教授)  
松本 淳 (東京都立大学都市環境科学研究科 客員教授)、香山 成子 (三重大学名誉教授)

17:25～17:30 閉会挨拶(総合司会)

### 12月13日(水)10:00～17:30 (英語のみ; 国際セッション)

「開会セッション・基調講演」、「データシステムとネットワークの課題」、「オープンサイエンスとFAIR原則」、「ポスターセッション1」

### 12月14日(木)10:00～17:30 (英語のみ; 国際セッション)

「COVID-19データから得られた教訓」、「データサイエンスの最近の進展」、「若手研究者と科学者の関与」、「ポスターセッション2」

### 12月15日(金)10:00～17:30 (英語のみ; 国際セッション)

「アジア・オセアニア データフォーラム」、「GEO寒冷地イニシアティブ」、「ストラテジック ディスカッション」、「ポスターセッション3」

主催: 日本学術会議 情報学委員会、情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会  
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設  
後援: 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構、国立研究開発法人 情報通信研究機構  
国際学術会議 世界データシステム、国際学術会議 科学技術データ委員会、日本DNAデータバンク

# 微生物がつなぐ文理融合研究 — 野生酵母クラフトビールと地域振興 —

人は古代より微生物を利用し、酒、パン、漬物などの発酵食品を生み出し食生活を豊かにしてきた。近年、日本各地の小さな醸造所でクラフトビールの製造が行われ、地域の特徴を活かした個性ある商品が開発されている。本講演では、静岡大学と地元自治体、地元企業の産官学で協働して行っているクラフトビールプロジェクト、その他の発酵食品、発酵飲料開発への取り組みを紹介する。生物学、歴史学、経済学、倫理学等の文理融合総合知を動員し、歴史的価値のある寺社や史跡、地域住民に愛される自然豊かな地域から野生酵母を単離しそれを活用することで、ストーリー性のある魅力的な地域の特産品を生み出し地域振興を目指している。これまでの本活動を通して得られた意義と課題、それを踏まえた今後の展望を議論したい。

## 静岡大学 大学会館

静岡県静岡市駿河区大谷836

令和5年  
12/15 金  
13:00▶16:00

アクセス

JR静岡駅北口のしずてつジャストラインバス8B番乗り場から美和大谷線「静岡大学」行き、「東大谷」(静岡大学経由)行き、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」(静岡大学経由)行きに  
乗車し「静岡大学」又は「静大片山」で下車。

## PROGRAM

- 13:00▶13:10 ◆ **開会挨拶**  
静岡大学長 日詰 一幸
- 13:10▶13:20 ◆ **日本学術会議会長挨拶**  
日本学術会議会長 光石 衛  
(日本学術会議会長・第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事、東京大学名誉教授)
- 13:20▶13:30 ◆ **主催者挨拶**  
日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章 (日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)
- 13:30▶13:40 ◆ **科学者との懇談会活動報告**  
中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久 (同朋大学学長)
- 13:40▶16:00 ◆ **野生酵母による発酵飲料・発酵食品開発**  
**学術講演会**
- ① **野生酵母に学ぶ多様な微生物世界**  
丑丸 敬史 (静岡大学大学院理学領域生物科学系列教授)
- ② **地域の野生酵母が生んだ予想外の展開**  
木村 洋子 (静岡大学大学院農学領域応用生命科学系列教授)
- 歴史研究と物語性 一家康公クラフトを一例として**  
松本 和明 (静岡大学大学院人文社会科学領域人間・社会系列准教授)
- 日本におけるクラフトビールツーリズムの可能性**  
横濱 竜也 (静岡大学大学院人文社会科学領域法学系列教授)
- 16:00 ◆ **閉会挨拶**  
司会 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 久木田 直江 (静岡大学名誉教授)

入場  
無料

どなたでも  
参加できます

## 対面・オンラインによるハイブリッド開催

参加希望の方は、12月8日(金)までに下記URLまたはQRコードより事前に申込みをお願いいたします。  
定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

<https://forms.office.com/r/wNSqUywQwy>



お問い合わせ

●日本学術会議中部地区会議事務局 (名古屋大学研究協力部研究企画課内)  
TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041  
●静岡大学  
TEL: 054-238-4316 FAX: 054-238-4312

主催 日本学術会議中部地区会議

共催 静岡大学

後援 公益財団法人日本学術協力財団

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

## 講師プロフィール

### 講演 題目

## 野生酵母による発酵飲料・発酵食品開発

**A** 野生酵母に学ぶ多様な微生物世界

静岡大学大学院理学領域生物科学系列教授 **丑丸 敬史**

**B** 地域の野生酵母が生んだ予想外の展開

静岡大学大学院農学領域応用生命科学系列教授 **木村 洋子**

### 【講演要旨】

古代より微生物は利用され、酒、パン、漬物などの発酵食品が生み出されてきた。酵母は糖を分解して、アルコールや香り豊かな有機物を産み出す能力を持つため、酒類を作るために欠く事のできない微生物である。今回、静岡大学と地元自治体、地元企業の産官学で協働して行っているクラフトビールプロジェクト、及び、その他の発酵食品、発酵飲料開発への取り組み、高大連携事業を紹介する。歴史的価値のある寺社や史跡、地域住民に愛される自然豊かな地域から、ビールや他のアルコール飲料に活用できる野生酵母を単離することに成功し、改良も行った。それらを地域企業に提供することで、魅力的な地域の特産品を生み出す地域振興を目指している。



### 【丑丸 敬史 プロフィール】

専門は、細胞生物学。京都大学大学院理学研究科で学位(理学博士)取得後、静岡大学に着任。出芽酵母を用いて細胞増殖とストレス応答を解析。その経験を活かして、地域貢献の一環として有用性野生酵母の単離と解析を行っている。



### 【木村 洋子 プロフィール】

専門は、細胞分子生物学。大阪大学大学院理学研究科で学位(理学博士)取得後、シカゴ大学(ポストドク)、東京都医学総合研究所を経て、静岡大学に着任。真夏の暑さに生物はどう対応するかという問いを、出芽酵母を用いて解明する一方、静岡の野生酵母の単離を行いながら、地域に貢献できる有用酵母の可能性を模索している。

### 講演 題目

## 歴史研究と物語性 — 家康公クラフトを一例として

静岡大学大学院人文社会科学領域人間・社会系列准教授 **松本 和明**



### 【講演要旨】

生物学(微生物・酵母)と歴史研究・名所旧跡との接合は、直線的には困難であり、媒介項が必要である。その媒介項として由緒が有効ではないかと考えている。徳川家康を開祖とする江戸時代は「由緒の時代」とも称されるように、有象無象の個人・社会集団が自らの利害関係と密接に結びつきつつ、虚実混交の由緒を主張する。翻って、静岡市においては徳川家康の由緒を称する名所旧跡が多く点在する。そして家康公クラフトはかかる場所から採集した酵母から醸造されている。虚実の弁別も重要ではあるが、由緒として語られること自体に意味を見出すことで、家康公クラフトも由緒に依拠しているといっても過言ではない。そこで、家康公クラフトを事例として、由緒がつかぬ文理融合の可能性について考えてみたい。

### 【松本 和明 プロフィール】

専門は、日本近世史。関西学院大学大学院文学研究科にて学位を取得後、西宮神社文化研究所主任研究員などを経て、静岡大学に着任。徳川将軍から領地安堵をうけた朱印地寺社について、畿内近国、安房、出羽などをフィールドに研究を行っている。駿河でも分析を進めているが、寺社をめぐる今川家・徳川家康の由緒に関心を持っている。

### 講演 題目

## 日本におけるクラフトビールツーリズムの可能性

静岡大学大学院人文社会科学領域法学系列教授 **横濱 竜也**



### 【講演要旨】

日本はクラフトビールブームのなかにあるといわれている。1990年代の酒税法改正を契機にして地ビールブームが起り、それが一時下火になったのち、2010年代よりクラフトビール製造が盛んになった。なかでも静岡県は29のクラフトビール醸造所を擁し、中心都市の駅前にはビアバーが軒を連ねており、「クラフトビア王国」ともいわれる。この背景の下で、静岡大学・静岡市・地元クラフトビールメーカーが協働し、観光誘致のひとつの手段として家康公クラフトが製造・販売された。クラフトビールをきっかけとする観光誘致は、成功するの否か。成功のための条件は何か。日本で定着するのか。また、地域コミュニティの持続可能な発展に、クラフトビールはどのような影響をもたらすのか。本報告では、欧米でのクラフトビールツーリズム研究を参照しつつ、これらの問いに取り組みたい。

### 【横濱 竜也 プロフィール】

専門は、法哲学。東京大学大学院法学政治学研究科で学位を取得後、首都大学東京(当時)助教を経て、静岡大学に着任。法哲学では悪法問題や移民正義論の研究を行ってきたが、地域コミュニティのサステナビリティと正義との関連に関心を持ち、静岡大学発酵とサステナブルな地域社会研究所にて、静岡におけるビールツーリズムやコンテンツツーリズムの可能性を学問的に検討する作業に取り組みは始めている。

## 水産・海洋分野におけるAIの役割と課題

スマートデジタル技術を活用した水産業の構造転換や、水産資源や海洋生態系の保全を図る活動が活発化する中で、AIの役割が注目されている。前者については、漁業における漁場探索やセリでの魚を見る力、養殖における餌やりなど、「人」に依存した経験や勘をデータ化して活用することがAIの重要な役割となり、高齢化した漁業者の持つ技術を若い世代に引き渡し、産業として活かすことにつながる。後者については、あらたな環境/生態系/水産資源モニタリングの展開と、収集されたビッグデータの学習により再帰型AI等による将来予測が期待される。さらにAIは、生産・流通システム全体の最適化のほか、ビッグデータの解析などを通じて研究開発や人材育成にも広く影響が及ぶと期待される。また、水産現場や各種モニタリングにおいて、無人化あるいは省人化が今後ますます必要になり、その実現のためにAIを含めたデジタルツインの手法が活用されると見込まれる。本シンポジウムでは水産・海洋分野におけるAIの役割と課題を考えることにより、漁業・養殖業のあり方や水産・海洋科学の将来像を展望する。

令和5年

12月15日(金)

13:00-17:30

オンライン開催  
(Zoomウェビナー)  
参加費無料

### プログラム

13:00-13:10 開会挨拶と趣旨説明

大越 和加 (日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科)

#### 基調講演

13:10-13:40 「AIで何ができるか/何をするか? - AI利用の現状・展望と課題」  
和田 時夫 ((社)全国水産技術協会)

『スマート水産業の推進』 座長: 笠井 久会 (北海道大学 大学院 水産科学研究院)

13:40-14:05 「スマート水産業の施策」

金子 貴臣 (水産庁 増殖推進部)

14:05-14:30 「AI技術を利用したサンマ漁場予測手法の開発」

矢吹 崇 ((社)漁業情報サービスセンター システム企画部)

14:30-14:55 「AI時代の資源評価用体長データ収集のあり方」

柴田 泰宙 (国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所)

14:55-15:20 「養殖業における運用」

萩原 篤志 (日本学術会議連携会員、長崎大学 水産学部)

『将来展望と課題』 座長: 窪川 かおる (帝京大学先端総合研究機構)

15:30-15:55 「微生物生態系のAIモデリングと恒常性評価」

菊地 淳 (理化学研究所 環境資源科学研究センター)

15:55-16:20 「水産分野におけるAIの可能性」

和田 雅昭 (はこだて未来大学 システム情報科学部)

総合討論 座長: 中田 薫 (国立研究開発法人水産研究・教育機構)

16:20-17:25 パネリスト: 石若 裕子 ((株)ソフトバンクIT&アーキテクト本部 アドバンスドテクノロジー推進室)、菊地 淳、柴田 泰宙、高瀬 美和子 (大日本水産会)、萩原 篤志、和田 雅昭

17:25-17:30 閉会の挨拶

佐藤 秀一 (日本学術会議連携会員、福井県立大学海洋生物資源学部)

主催: 日本学術会議食料科学委員会・同水産学分会

共催: 水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会

後援: 大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会

### Zoom ウェビナーによるオンライン開催 参加申込方法 (定員 1,000名)

参加をご希望の方は、12月9日(土)までに、下記URLまたは右にあるQRコードで参加申し込みサイトにアクセスして必要事項を入力の上、申し込みください。

<https://forms.gle/CMGhWijbMda1Er4J7>

お申し込みいただいた方には、開催日までに、視聴用URLをメールにてご連絡いたします。

### お問い合わせ先

古谷 研 (日本学術会議連携会員、創価大学)

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1丁目236 創価大学 プランクトン工学研究所

FAX: 042-691-8166 E-mail: furuya[a]soka.ac.jp ([a]を@にしてください)

